

日本百名山の足跡

西日本支部 中野 仁（機械2期）

やっぱり山が好き、どんな急な山道を息を切らしながら登る時も、長い縦走路を歩く時も、山に登れる幸せを感じながら今日まで来ました。

昨年9月福島県の会津駒ヶ岳を最後に日本百名山を全て登りました。アフターリタイアの生き方の一例として百名山の足跡を報告いたします。

私は卒業以来ずっと兵庫県在住で5年前にサラリーマンを定年退職し、今は一切の仕事を断ち、年金生活の身です。

高専在学中からアマチュア無線を趣味にしており、社会人になっても、よく無線機を担ぎ県内の山に登り、無線を楽しんでいましたが、次第に山、そのものに魅かれていきました。

季節と共に移り変わる大自然の素晴らしさ、頂上を踏んだ時の達成感、山はサラリーマン時代のストレスリリーフの一つの手段でした。

兵庫県の最高峰は鳥取県との県境にある氷ノ山(1510m)です、ここは60回以上登りました。兵庫県の誇る素晴らしい山ですが、次第に、より感動の高い山を目指すようになったのは自然の流れでした。

近県の山に登り、更に遠くへ足を延ばすとなると、どうしても泊り掛けの日程になります。在職中はお盆休みとか纏まった休みは限られていて、行動も制限されていました。

それでも少ない休みに、出張で得たマイレージ利用で東北に行ったり、夜行バスで信州遠征とか、少しずつ行動範囲を広げていきました。

その頃はまだ日本百名山が目標という意識は全くありませんでしたが、登ってみたいと思う山はほとんど百名山に含まれる山でした。

リタイア後の生活設計で、目標を持って行動したいと考えていたので、好きな登山の延長で、百名山は目標に相応しいと思いました。

全く自信はなかったけど、現状の体力を維持できるならと、微かな期待もありました。



’09年8月 別山乗越 劔岳



’09年9月 大雪溪 白馬岳

2010年3月、定年退職の際、お世話になった同僚に退職後は趣味の世界に生きます、百名山完登を目指しますと、大見得を切ってサラリーマン生活にピリオドを打ちました。

この時点で登った山は23座、残り77座でした。

方針として、絶対安全で、なるべく金をかけず、5年以内達成を目標に定めました。基本的に移動は車で、行動中は車中泊、単独行としました。目標が決まったら計画を立て行動する、反省を加え次の計画を練る。この繰り返しです。

●2010年

退職した2010年は5月に九州遠征、九重山、祖母岳、阿蘇山、開聞岳と登り、順調に滑り出しました。

更に、7月に五竜岳、常念岳、8月初には奥穂高の頂上を踏みました。これらの山は金をかけずに、を優先するとテント泊になるのですが、重装備は還暦の身にあまりにも過酷です。当然山小屋泊りですが、それでもザックは10kg以上になります。

我身の安全のためにはケチらず、金をかけよう、若干の方針変更です。8月、南アルプス北岳、間ノ岳、10月に八ヶ岳で、この年は10座で終了。残り67座、冬の間は次のシーズンに備え冬眠です。

●2011年

2011年は4月の屋久島宮之浦岳からスタート、ここは在職中に得たマイレージで空路、屋久島入り。ガイドブックでは4月中旬には雪は消えると書いてあったのが、この時は結構な残雪、頂上近くの登山道は完全に雪の下、GPSが役立ちます。おかげでいつも混雑するらしい山小屋は快適、雨の屋久島で雨具の出番もなし、天も味方してくれた。

7月に1年かけて計画してきた北海道へ遠征。北海道9座のうち、既に登った羊蹄山、大雪山を除く7座が目標です。

舞鶴からフェリーで小樽に渡り、最初は幌尻岳、この山は百名山でも最難関級の山です。最初のアプローチでかなりの時間、川を歩く渡渉を求められます。



’10年8月 涸沢 奥穂高



’11年7月 幌尻岳

この為少し雨が降ると、水量が増え入山できなくなります。

私が行ったときは普通の水深だったそうですが、それでも股間が濡れる位の水量でした。こんな川を歩く山は百名山の中でも幌尻岳以外にない。更に、この山は途中の幌尻山荘一泊が普通の行動パターンですが、ここは完全予約制、シーズン中は満杯で全く予約が取れない、私は7月の予約を受付開始直後の4月に何とか取りました。

予約は取れても、雨で入山規制があると小屋にはたどり着きません、本当にアプローチも行動も難しい山です。

この山では、足骨折の遭難者が道警へりに救出される場に遭遇した。道内の登山者らしいが、道外の人間だったら、ワシラの税金を使つてと、北海道民の非難を浴びることになるのだろう、気を引き締める。

私の場合は天候にも恵まれ、途中クマ目撃のおまけも付き、無事帰還できました。

余談ですが、北海道遠征に備えクマ撃墜スプレーなるものを準備した。危機に曹禺したとき噴射するとクマは一目散に逃げるとの効能ですが、射程距離8m、そこまで冷静に引きつけて行動できるのか？ 自信なし。もし風向が逆だったら？？？ 今も未使用で持ってます、賞味期間は3年とか、1本1万円は安いのか、高いのか？ 安全はケチらないのが方針だった。

幌尻の後、平取温泉で汗を流し日高町の道の駅で車中泊、1日を移動日にあてトムラウシへ。

ここもかなり難易度の高い山です、途中に山小屋がなく、時間かかってもし帰りて帰ってくるしかない、9時間ほどかけて歩くことになります。

車中泊のための食糧、ビールを調達して登山口につくと、マイクロバスが停まっており、運転手が暇そうにしている。話してみると朝早く団体の登山客を運び下山を待っているとのこと、予定では4時と言ってたけど、もう4時はとうに過ぎている。

私は早めの晩飯とビールを済ませ、お休みモードに入ったが、先程のバスがまだ停まっている。時間はもう6時過ぎ、再び運転手に話しかける。

よくあるパターンらしいが、携帯もつながらず、連絡の手段がなく、待つしかないとのこと。かなり薄暗くなって団体が下りてきた。

他人事ながら無事でよかった。聞くと14時間以上かかっている。

過去の遭難事故が頭を過ぎり、明日の自分の行動に気合を入れる。

トムラウシ山頂はガスでほとんど何も見えなかった。ナキウサギにも会えなかったが、予定通りの行動で無事下山。

次の目標は雌阿寒岳、移動日なしで当日中に阿寒湖温泉を目指す。足寄町のコンビニで食糧、ビールを買い込み快調に走っていたが、アクシデント発生。スピードオーバーでパトカーに止められた。

免許証提示で、住所は兵庫県ですが本籍は北海道です、何とか穏便にと願ったが、1万5千円を7日以内に支払え！との冷たい処遇。ここで1万5千円は痛い、痛い、痛い！この1万5千円は安全に寄与するのか？

北海道は広い、こんな立派な道路を整備するには金もかかるだろう。道路利用のお礼と考えようとしたが、凡人はそんな心境になれない。

雌阿寒岳の後は羅臼岳、斜里岳と続きます。早朝から登り、下山後温泉に入り、コンビニで食材、ビールを調達して次の登山口で車中泊のパターンが定着して、体調も絶好調。

利尻岳は稚内に車を置きフェリーで利尻島入り、この遠征で初めての旅館泊り。海の幸がうまい。夕食時、隣の男性と話をすると、神戸から札幌に単身赴任中らしい。更に聞くと、なんと私の勤務していた会社の北海道支社勤務とのこと、異なる事業部で面識はないが共通の知人の名前が何人か出てきた、世の中あまりにも狭い。

翌朝、宿の車で登山口に送ってもらい登山開始、直後は風も強く霧の中だったが頂上に近づくにつれ霧は晴れ、頂上は雲海に浮き、青空が広がる幻想的な景観を体験できた。

下山後は再び宿の車で港まで送ってもらいフェリーに乗込む、チェックアウト後の客でも送迎してくれる宿に感謝、暖かい北海道に触れた。

稚内で温泉につかりそのまま温泉の駐車場で車中泊、トイレも清潔で快適、残りはあと1座、十勝岳。

稚内でしばらく寝て目を覚ますとまだ2時、夜間の移動は避けてきたが、顔を洗い出発とする。

旭川に向かう国道40号線はすれ違う車もなく快調、途中道央道に乗り、旭川からR237へ、十勝岳の登山口である望岳台には10時に着いた。

登山開始にはちょっと遅い時間だが、行動には十分余裕がある。この日は途中、雨具を着る天気だったが、噴煙を見ながら頂上到着。北海道遠征の目的達成の瞬間だった。

この遠征で連続で行動する場合の要領も覚え、ひょっとしたら百名山、いけるかもとの自信もほんの少し生まれてきた。

この年は9月の槍ヶ岳、南アルプスの赤石岳、悪沢岳でシーズン終了。

●2012年

2012年は5月に行動開始、雪の消えた山を狙い、大菩薩嶺、雲取山、両神山にトライ。雲取山は2017m、東京都の最高峰、人里離れた山奥でここが東京都とは信じ難い。

6月に瑞牆山、金峰山、甲武信岳、7月には山小屋4連泊で北アルプス、薬師岳、黒部五郎岳、鷲羽岳、水晶岳を縦走した。この時期は山小屋も最盛期、1人に布団1枚確保できたらラッキーでしょう。

8月に入って、本年のビックイベント東北遠征を実行、まず一気に青森まで走り、徐々に南下しながら岩木山、八甲田山、八幡平、岩手山、早池峰、月山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山の10座を2週間かけ、登る計画です。

山陽、中国、名神、北陸、関越、東北の自動車道に乗継ぎ、青森まで休憩、仮眠を含めて24時間、青森が兵庫県と地続きであることを確認。

東北のこれらの山は登山口から日帰り登山が可能で、下山後の温泉

も豊富にあるので快適です。時には1日に2座登り、2週間の計画が予定よりも早い日程で完了。

9月、10月に南アルプスの塩見岳、光岳、聖岳、鳳凰山に登り、年25座、合計71座となり、徐々に先が見えてきた、でも慢心は禁物。



’12年7月 黒部五郎岳



’12年9月 聖平小屋 聖岳

●2013年

2013年は5月下旬、北関東の赤城山、皇海山、奥白根山で行動開始。

この時期、多少の残雪は覚悟したが、奥白根山は結構な残雪で難儀。もう1座、男体山を予定、登山口まで行くが、あいにくの雨、2日連続雨の天気予報で、今回は断念、帰途に就く。

7月、梅雨明け早々、笠ヶ岳、焼岳、美ヶ原、霧ヶ峰、蓼科山へ、笠ヶ岳は笠新道コース、頂上直下の小屋まで標高差1700m以上を1日で登らないと途中の小屋はない。

こんなコースはゆっくり、ゆっくり、歩幅も小さく体力温存、コツがつかめてきた。オレも見掛けだけはヤマヤに近づいたかなと独りニヤける。

美ヶ原、霧ヶ峰は登山というより散策の雰囲気、それでも百名山、登らないと完登はない。

8月に入り長野、新潟県境に近い雨飾山、高妻山、火打山、妙高山にアタック。繁忙期なのに人は少なく、山小屋もゆったり、小屋のビールも安い。百名山でもマイナーと言える山だが逆におすすめ。

9月は浅間山、四阿山、草津白根山へ、いずれも登山口から日帰登山。下山後の温泉がたくさんあり、どこに行こうか迷ってしまうほどだ。

10月シーズン最後に巻機山、苗場山、谷川岳に挑む、この頃になると車中泊も結構寒い、山も頂上近くでは紅葉がすすんでいる。

苗場山は山頂手前の急坂を登りると、上は広大な湿原が広がっている。どんな構造になっているのか、なんで水が涸れないのだろう。

ロッククライミングで魔の山と異名のある谷川岳もロープウェイを使うと難なく登れてしまう。ただ、これも雪のない時期の話、この山では記録に残るだけで200人以上が命を落としている・・・合掌。

2013年シーズン終了で89座、いよいよ完登が見えてきた。



'13年8月 妙高山



'13年10月 谷川岳

●2014年

2014年のシーズンは5月下旬の筑波山、那須岳、男体山で開幕。

筑波山は首都圏から気軽に行ける山らしいが、兵庫県から600kmも離れている。東京都内の走行を避けてきたので最後に残ったが、覚悟を決めて計画した。

名神、東名、首都高、常磐道を乗り継ぐ、首都高を運転するのは初めてで、ナビと標識だけが頼り。深夜割引を狙い時間調整していたが、首都高に入ると料金精算となるらしい。結局、割引は適用されず残念。

男体山は前年、雨で断念していたが、今回は快晴の下で快調だった。帰りのルート、ナビは都内を通るコース選択だが、老神温泉経由で関越、上信越、長野、中央道を選んだ。可能なら東京都内の走行は避けたい。

7月、尾瀬周囲にある燧ヶ岳、至仏山と武尊山に足を運んだ。燧ヶ岳、至仏山、共に単独で日帰り登山が可能だが、せっかくの尾瀬、尾瀬沼も、尾瀬湿原も歩きたいと思い、群馬県側の大清水から入り、山小屋2泊で鳩待峠へ抜けるコースを選んだ。

ここは登山者とハイカーが混在しており、ちょっと場違いなところに来てしまった雰囲気だ。登山者スタイルは劣勢、一人浮いてしまった。

これで残りは5座。

台風の動きを見ながら計画を進めるが、好天が連続しない、少々の雨覚悟で、お盆の時期、朝日岳(山形県)、飯豊山(福島／新潟／山形)の行動を進める。

まず、朝日岳、北陸道、日本海東北道を乗継ぎ、胎内市から一般道で寒河江市へ。温泉付きの道の駅で車中泊、翌朝登山口の古寺鉱泉へ向かう。ここは頂上直下の山小屋泊り、1泊2日の工程で計画。

ただし、この小屋は素泊まりのみで、食糧、寝袋は持参、でも何故か、ありがたいことにビールは売っている。

ほぼコースタイム通りで無事下山、国道287、113を走り、道の駅いいでにて車中泊。

次の目標は飯豊山、ここから山形側の大日杉登山口までは60km程度。飯豊山は標高2105m、それ程高くないが奥が深い、更に雪が遅くまで残り、かなり難易度の高い山だ。今回は山小屋2泊の計画で進める。

1日目は6時間歩いて切合小屋へ、ここは寝袋持参だが、食事提供があるのでありがたい。更に2時間ほど登ると本山小屋があるが、ここは素泊まりのみで自炊の装備が必要。

2日目、頂上までの途中にある本山小屋で休憩してビールを飲んだが、350缶が1000円、ヘリ輸送は理解できるがやはり高い、北アルプスの小屋で生が1000円はあったが、350缶がこの値段、それでも2本も飲んでしまうのが酒飲みの性か？単なる困ったおっさん？

途中の燃料補給もあり順調に頂上着、しばし景観を楽しんだ後、下山、と言っても登山口まで8時間以上の距離、切合小屋でもう一泊する。

このビールは800円、ものすごく安く感じてしまうのは昔習ったハロー効果というヤツか？

3日目は朝から結構な雨が降っている、下山だけなので合羽を着て行動開始。時代の最先端のゴアテックスといえど万能ではない、汗と侵入してきた雨でほとんどずぶ濡れ。

更に長年愛用し、ソールを3回張替えた靴が防水効果なく悲惨な状態。

下山後、道の駅喜多の郷温泉で汗を流して帰途に就く予定だったが、雨中の行動はさすがに疲れた、会津若松市でビジネスホテル泊として近くの居酒屋で独り反省会を行った。

いよいよ残り3座となった。越後駒ヶ岳、平ヶ岳、会津駒ヶ岳、これらの山は新潟、群馬、福島各県に跨るが登山口は国道352号沿いにあり連続して行動しやすい。

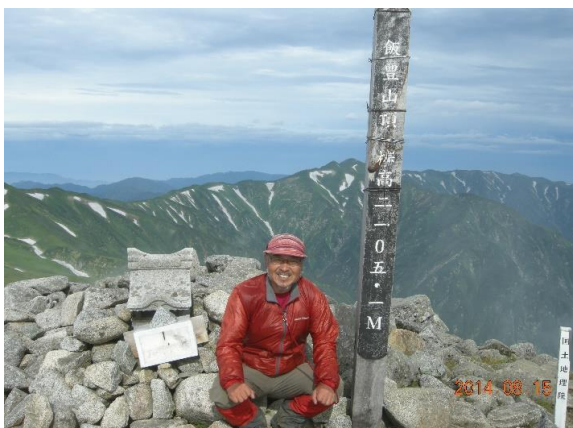
行動開始は9月9日、北陸、関越道経由小出ICから越後駒ヶ岳の登山口である枝折峠へ、ここまでも兵庫県から660kmもある。

天候にも恵まれ9時間で越後駒ヶ岳を往復、山よりお酒の名前で有名な八海山が目の前に美しく鎮座している。

次は平ヶ岳だが、これがまた最後の難関、コースタイムでは往復で12時間近く、しかも途中に山小屋はない。

更に、この時期、日の出、日の入りの時間が行動時間を短くしている。

結局、テント泊で1泊2日の工程を選択した。1日雨で停滞を経て、夜明けを待って行動開始。前日、周りで車中泊していた他の登山者は暗いうちから登ったようで、私が最も遅い出発となった。



’14年8月 飯豊山



’14年9月 百座目の会津駒ヶ岳

テントを担ぐとやはり重い、食糧、水もあり、歩くペースもいつもに加えゆっくり、ゆっくり。6時間程歩きテント場近くになって下山者とすれ違う。夜明前に行動を起こした人達だ、彼らは12時間を1日で歩くつもりなのだ。頂上のかかなり手前でテント場にザックを置き空身で頂上を目指す、誰もいない頂上、これで99座、独りニンマリ。テント場も今日は私のみ、重い荷物の中に潜ませたウイスキーで独り乾杯、星空を眺め孤独を満喫する。

翌日下山後、100座目となる会津駒ヶ岳を目指す。国道352号は福島側の尾瀬沼への進入路でもあるが、新潟県側は特に道幅が狭く、走行に細心の注意が必要、特に雨の時は鉄砲水の恐れもあり、非常に危険、ここは酷道352号と言われているらしい。

麓の桧枝岐村で食材、ビールを調達して滝沢登山口へ行くと既に満車の状態、国道脇の駐車場に戻る、30分ほど長く歩くことになるが、ここはシャワートイレもあり文句なし、車中泊の快適条件を十分満たしている。

会津駒は頂上近くに山小屋があるが、7時間の工程で、日帰りの予定。この日9月14日は日曜日で登山者も多いようだ。平ヶ岳と雲泥の差だ。朝6時に出発、さすがに人気の山で人が多い。マイペースを維持しつつ9:40頂上着。

ついに百名山完登達成の瞬間だ、バンザイ！写真をお願いした人に控えめに、この山で百名山完登ですと言うと、たちまち周囲に広がり、居合わせた登山者の皆さんからお祝いの言葉をいただき感激に酔う。

振り返って我ながらよく登ったなと思います。宣言しても本当に登れるのか、全く自信なんかなかった。一步一步進めるごとに道が開けてきた。計画を練ることの大切さ、行動とともに学ぶことができました。

リタイヤ後の77座は全て単独で登りました。全体の中でも93座が単独です。単独は危険との声はよく聞きますが、全ての行動が自己責任で、他人に頼らない行動が逆に安全につながると考えてます。

保険でアマチュア無線の小さな無線機は必ずザックに入ってます。幸い非常時の出番はありませんでしたが・・・。

計画を立てるときから登山は始まっています、情報を集め登山口までのアプローチ、コース選択、時間配分、非常事態も想定して実行計画を作ります。計画は行動の成否を決める重要なポイントです。

百名山、近年の中高年者の登山ブームで挑戦する人が増えてます。自己満足の世界で認定証があるわけでもないのですが、この達成感言葉で説明しがたいものがあります。

確かに体力もいります、金もかかります、でも、最も必要なのは家族の理解を得ることでしょうか。

多くの方に山を楽しんでいただき、この感動を共有したいと希望します。

以上